

DoYou!
特集

老舗に学ぶ 企業存続の秘訣

荒波を乗り越えてきた老舗の底力

日本の企業は、起業後1年で約3割、3年で約7割、5年で約8割が廃業となり、創業から10年後に生き残っている企業は、わずか1割しかないそうです。しかしその一方で、100年以上の歴史を持つ企業は約2万社と企業全体の1.6%にのぼり、創業200年以上の歴史を持つ企業は3,100社もあります。ドイツが800社、オランダ200社、アメリカ14社、中国9社といえますから、いかに日本には老舗企業が多いことがわかります。ここ最近、老舗企業の研究が注目されています。長らく生き延びてきた秘訣はどこにあるのか、同友会会員の老舗企業取材しました。

老舗企業の強さ6つの源泉

のれんを創る

- 「らしさ」を生み出す
- ・存在意義を問い続ける
 - ・生存領域を定義する
 - ・「技術」を磨き続ける

商いを創る

- 長期的・持続的な競争力を創りこむ
- ・身の丈の経営にこだわる
 - ・外部環境への適応力を高める
 - ・上質な顧客と長期的な関係を創り、小さな差別化を大事にする
 - ・起業家精神と客観的視点を育む
 - ・危機を事業機会にする
 - ・周辺視野を広げる

人を育てる

- 後継者・従業員の学びを促進する
- ・従業員を育てる
(時間をかけ、事業の中核に重きをおく)
 - ・後継者を育てる
(その気にさせる。社外経験をさせる)

関係を創る

- 顧客・取引先と共に成長する
- ・顧客とともに進化する
 - ・価値を共創する
 - ・関係を体系化する

地域性・地縁を活かす 社会と共に歩む

- ・地域社会に貢献する
- ・生業、世代を超えて学び合う

環境変化に対応する 環境を読み、創る

参考資料 東京商工会議所中央支部「老舗企業の生きる知恵」

大分県の企業平均年齢は 34.6 歳

帝国データバンク大分支部が算出したデータによると、2012年の大分県内企業の平均年齢は34.6歳となるそうです。業種別に見ると、製造業の43.6歳が最も高く、これは技術やノウハウの蓄積が重要という側面があるからだと思います。一方、最も若かったサービス業の27.6歳は、IT関連をはじめ比較的先行投資が少ない業種であり、近年に創業したケースが多いから。ちなみに都道府県別では、大分県内企業の平均年齢の高さは39番目となります。皆さんの会社は、何歳ですか？



創業 慶応 2年 企業存続の秘訣

高い志と感謝の心

株式会社 太田旗店

(大分支部会員企業)

大分市府内町1-2-33
TEL.097-532-5511
FAX.097-532-0472
http://www.ootaflag.co.jp/



慶応2年の創業と、3年後には創業150周年を控える株式会社太田旗店。大分市坂ノ市の「太田染工場」からスタートし、神社やお祭りの幟、店先の暖簾、消防団の法被、大漁旗、手ぬぐい等々、日本の伝統技術を活かした多岐にわたる製品づくりを手がけてきました。現在は大分市府内町に本社、西新地に生産拠点を置き、大分県内はもとより全国に取引先を広げています。



「当社は全社的にベンチャー的考え方を大切にしており、見本市への出展を機に県外への販路拡大も積極的に展開し、福岡支店、東京支店を開設するまでに至りま

した。分業制が主流の業界で、企画・デザインから染色・縫製まで一貫して生産できる体制がお取引先のニーズに合致しました(太田光則代表取締役会長/六代目代表) 高品質・短納期・低コストのものづくりを実現している同社は、日本古来の染色技法を踏襲するだけでなく、先進的なアイデアを交えた商品開発にも余念がなく、同社が提案する商品は常に業界の注目を集めています。 長年企業を存続できた秘訣を尋ねると「志を高く持ち、感謝の気持ちを忘れなかったからかな?」と太田会長。同社では経営理念に「三社総繁栄」「深染・脱染・ベンチャー魂」を掲げています。前者は社会・会社・社員の繁栄を願い、後者は伝統技を極め、新たな技を開発し、挑戦していく姿勢を表しています。創業時から脈々と流れるブレない信念が、今日の太田旗店のすべてを物語っているのです。



創業 大正 10年 企業存続の秘訣

“イズム”を継承する

株式会社 亀の井別荘

(湯布院支部会員企業)

由布市湯布院町川上2633-1
TEL.0977-84-3166
FAX.0977-84-2356
http://www.kamenoi-bessou.jp/



中谷太郎 代表取締役社長

創業90周年を迎え、この春、父親の中谷健太郎氏から代表取締役社長を引き継いだばかりの中谷太郎氏。湯布院を代表する日本宿の、四代目当主に期待を寄せる方も多いことでしょう。「宿という屋台を、お客様、従業員、業者さんそして「地域」が支えてくれています。自分は、まだ全国的な観光地になる前の、何もなかった頃の湯布院に生まれました。その



「何も無い」事を原点に、父を含めた先人たちが必死の思いで地域づくりに取り組んできました。宿を受け継ぐという事は、地域との繋がりを大切にすることだと痛

感しています」 先般はJR九州が新しく運行する豪華寝台列車の乗車クルーが、当宿と「由布院玉の湯」「山荘無量塔」の3軒の宿に、研修で訪れました。「おもてなしの在りようを「非日常」でなく、「日常」の延長線上に据えたいと思っています。非日常は、くたびれてしまうからです。それよりも滞在の間、ゆったりと温泉に浸かっているような気分でお過ごし頂ける事を大切にしたいのです。それを亀の井別荘ならではのイズム(主義・考え方)として、関わって下さる方々と共有したいのです。まずは家族、そして従業員から始めたいと思います」 90年の歴史を持つ宿に、さらに磨きをかけるため、新代表は「亀の井別荘イズム」の在り方を、あらためて噛み締めています。

創業
昭和
25年

企業存続の秘訣

若手に活力がある

二和カラー株式会社

(石垣支部会員企業)

別府市餅ヶ浜町2-36
TEL.0977-23-3327
FAX.0977-25-2596
http://www.niwacolor.co.jp/

岡崎 徹代表取締役



「創業60周年を機に、新しい世代へつないでいくためにも、一新することを決断しました」

平成22年10月1日に、「合資会社二和塗料商会」から「二和カラー株式会社」へと社名・組織変更を断行した岡崎徹代表取締役は、こう話します。同社は岡崎社長の父親が別府市千代町に塗料販売店として創業。昭和40年には大分市にも拠点を設け、県内一円に営業エリアを拡大し、いまでは建築用から車輛用塗料まで、多くの取引先を有し、最近ではリフォーム需要から個人客も増えているそうです。



「市場の動向を察知し

ながら、塗料メーカーとともに営業を展開してきましたが、たとえ業績がよくても後継者不在で閉店する同業者も増えています。古い体質のままでは、生き残りが難しい時代になっているのです」

同社では、娘婿にあたる田中充専務取締役が積極的に経営に参画し、社名・組織変更の際も、経営理念の再構築から新しいロゴデザインの制定に至るまで、岡崎社長をサポートしたそうです。

「中小企業は若手に活力があるかどうかで、全社的なモチベーションが違ってきます。私自身も父親の急逝で27歳の若さで二代目に就任し、舵取りをしてきました。歴史を大切にする一方で、新しい取り組みにも積極的な姿勢でのぞむことが、企業存続のエネルギー源だと思います」

岡崎社長の言葉に、同社の底力を垣間見るようです。

創業
昭和
34年

企業存続の秘訣

現状に甘んじない

有限会社 東栄工業所

(中津北央支部会員企業)

中津市田尻崎7-5
TEL.0979-32-5591
FAX.0979-32-5592
http://www.toei-kogyosho.co.jp/

児島靖正 代表取締役社長



「立体自動倉庫」という一般では耳慣れない機器の製作及び据付工事を手がける有限会社東栄工業所。もともと建築鉄骨を主とする鉄工所として昭和34年に創業した同社ですが、この分野に参入して約30年にもなるそうです。

「立体自動倉庫とは、コンピューター制御で無人のクレーン車を走らせ、立体型のラック(棚)に荷物を出し入れするシステムです。各種工場や物流センターに納品しており、金型や自動車部品から飲料ボトル、冷蔵・冷凍が必要な食品、医薬品と広い範囲で使われており、変わったところではお寺の納骨堂にも採用されています」



「現状に満足することなく、たゆまぬイノベーションを続けて行くことが、企業存続の秘訣のようです。」

もともと設計職で自動車ボデーメーカーに勤務していた児島靖正社長は、平成20年に幣旗勝行現会長から社長を引き継ぎ、3代目に就任しました。「現場をよく見ろ」という会長の言葉を胸に、全国でも数少ない立体自動倉庫製作メーカーが持つ可能性に、期待をもって仕事にのぞんでいます。

「実は私が社長就任の年にリーマンショックとなり、イバラの道からのスタートでした。独自のノウハウを持っていたとはいえ、それだけでは生き残れないと、これまで手がけていたラックの工場製作と現地据付に加え、周辺設備の製作や試運転調整という業務も開始しました。いずれは製品開発からアフターサービスまで一貫してできるようになりたい」

現状に満足することなく、たゆまぬイノベーションを続けて行くことが、企業存続の秘訣のようです。

創業
明治
38年

企業存続の秘訣

仕事に誇りを持つ

有限会社 田中醤油店

(今津・如水支部会員企業)

中津市大字丸1661
TEL.0979-32-0041
FAX.0979-33-0041
http://www.moromi.jp/

田中 宏代表取締役社長



老舗企業としてもっとも多い業種が酒造業と味噌・醤油製造業。有限会社田中醤油店も、明治38年創業と業歴100年を超える老舗企業です。

四代目となる田中宏代表取締役社長は、従来の味噌・醤油の製造だけでなく、新商品開発や販路拡大のため各種展示会への参加にも積極的です。

「“伝統”や“老舗”といった言葉だけに、あぐらをかいている時代ではありません。



特に中小企業の社長は、技術からマーケティングまで、すべて把握して業務に取り組みなければ、後継者を育てることもできません」

地産池消にこだわり、大分県産の大葉を使った「大葉ソース」は、調味料選手権2011(日本野菜ソムリエ協会主催)でも優秀賞を獲得した人気商品となっています。

その一方で、業界における職人の地位向上にも、一言を持っています。

「海外に比べ日本の職人は、なかなか地位が保証されていないように感じます。職人が時間をかけて作り上げたものを安易に安売りする傾向も、その表れでは? 当社が新しい商品開発に取り組めるのは、職人の高い技術力がベースにあつてこそ。経営者としては、職人としてこだわる部分、商売人として消費者のニーズを把握する部分、両方のバランスを上手に考慮した舵取りが求められます」

長年にわたり蓄積された技術と実績が、老舗企業に携わる者の“誇り”をも醸成しているのです。

創業
昭和
7年

企業存続の秘訣

誠実な商売に徹する

有限会社 白瀧屋

(鶴崎森町支部会員企業)

大分市中戸次5619
TEL.097-597-0053
FAX.097-597-2797

川 敬祐 代表取締役



大分市中戸次の白滝橋近くに本社を構える有限会社白瀧屋。別府市内でパン職人として腕を振るっていた初代が昭和7年に創業し、大分市では戦後まもなく学校給食用のパン作りの指定会社になりました。大分市内の子どもたちであれば、「白瀧屋のパン」というケースに見覚えがある方も多いと思われます。

同社の三代目社長は川 敬祐氏。国内外の音楽業界で活躍していたという、異色の経歴を持つ経営者でもあります。



「40代半ばで帰郷し、白瀧屋を引き継ぎました。長いブランクはあったのですが、子どもの頃

から親の後ろ姿を見ていたおかげもあってか、仕事そのものは早くなじめました」

パンだけでなく米飯給食にも対応し、約7割が学校給食と取引先は安定しているのですが、少子化の影響で製造量は年々減少してきているとのこと。

「学校給食以外にホテル、福祉施設、病院等へも納品しています。レストランからの受注でオーダーメイドのパンも製造しており、取引先は広がっています」

80年を超える業歴の秘訣は何でしょう。「基本的なことですが、嘘をつかず、誠実な商売を続けることです。当社だけでなく、お客さま喜んでこそ、そこに本来の商売の姿があることは、創業者である祖父が常々話していました」

いわゆる「Win-Win」の理念が、そこにはあるのです。